狭山ヶ丘学園

サオカの風

高 中

Vol. 3
2023 年 1 月

狭山ヶ丘高等学校・同付属中学校 〒358-0011 埼玉県入間市下藤沢 981 TEL:04-2962-3844 FAX:04-2962-0656 狭山ヶ丘学園

教育と政治について

識者に学ぶ

狭山ヶ丘高等学校
同付属中学校
校長　小川　義男

長く続いてきた世界平和も、ここに来て、少し心配な気配が見えてきています。しかし、この危機は、世界戦争に発展したりせず、人類の叡智によってなんとか克服して行けるのではないかと、私は期待と楽観の混じった気持ちで見つめています。但し、このあたりは識見のある人物のご意見に学びたいところです。

当面する我が国最大の問題は、恐るべき規模の人口減少ではないでしょうか。国全体に空き家が増大し、小中高等学校の生徒数も著しく減少しています。

私自身、高校卒業の直後、中学校英語科の教師として着任したのですが、小中併置校で、生徒数は小中併せて、百三十人でした。活気のある学校でした。秋には熊が出ます。栄養をつけなければ、冬眠中に死にますから彼らも必死です。熊が出ると、若い私は集団下校を引率し、真っ暗な田舎道を一人で帰宅しました。部落の方々は素敵な人ばかりで、今も忘れることが出来ません。四年後に私は大学に進学したのですが、その後急速に部落人口が減少し、今では花作りと、野菜ビニール栽培の二軒を残して、まあ、懐かしい部落が全面的にいなくなってしまったのです。学校の建物だけは公民館として残っていますが、利用する人もなく、訪れるごとに、心の底から寂しい思いをかみしめさせられます。

田園が滅び、都会の空のみが、きらびやかな光を宇宙空間に放つ。これで国家が繁栄し続けて行けるのでしょうか。

今年度のＰＴＡ父母教室では、所沢に事務所を置く、元文部科学大臣の柴山昌彦先生にご講演をお願いすることが出来ました。柴山昌彦先生は政治の分野で大きな足跡を残しておられる方ですが、東京大学をご卒業後、各種難関を突破してこられた方でもあり、ご講演の中から、保護者、教職員、中学、高校生の学ぶところは、極めて大きいと思います。

コロナ、なお猖獗を極める折から、規模は本校内部に止めざるを得ませんが、地域の皆様にも、このような研修会が行われようとしていることは、お知らせ申し上げておきたいと思います。

今後とも、本学園をよろしくお願い申し上げます。

が黒字になるとは限らないのです。また、円高の時代に、多くの企業が海外に生産拠点を移していましたので、単純に輸出大国とは言えない状況があります。そのような点からも、円安のメリットが生かせていないということが言われています。

ただ、今の日本の円安は、日本銀行の金融緩和政策も理由の一つではありますが、コロナ禍における海外の経済対策の影響によってドル高などの海外通貨高騰に繋がっているという側面もあると思います。この状況がずっと続くとも考えづらいので、すぐさま日本が金融緩和終了などの大きな転換をしないといけないという状況にもならないと思います。また、これまで海外に工場などの生産拠点を置いていた企業が、日本国内に拠点を移すようなことがあれば、国内での雇用を生むことになり、プラスの方向に働くということも考えられると思いますので、もう少し先をみて政策を考えていく必要があると思います。

小　1945年に第二次世界大戦が終結した後、局地的には色々あったものの、世界全体に目を向ければ、非常に長い平和を保ってきたと言えます。しかしながら、ここにきて深刻な国際紛争が起きてしまいました。今後、国際社会はどのようになっていくでしょうか？

柴　第二次世界大戦後、世界は「あれだけ悲惨な戦争を、もう二度と起こすまい」として、国際連合を発足し、平和に向けて取り組んできました。しかし、残念ながら、自由主義諸国と共産主義国家の間では、国のシステムや経済の在り方に対する考え方の違いがあり、それが「冷戦」という形で東西の対立・分断を生みました。「鉄のカーテン」と呼ばれたこの分断は、ある意味では、直接的な衝突を生まず、それぞれのグループの中で秩序を保っていたという側面がありましたが、やがてドイツが東西統一を果たし、冷戦が崩壊すると、同盟関係の重石がなくなったことで、ソ連から様々な国が独立をしたり、アフリカ地域では内戦が活発化するようになりました。また、最近では、昔の東西陣営対立の残骸ともいえるような問題である、共産主義をとっていた国の貧困や人権問題がクローズアップされるようになってきました。そのような不満や批判を抑えるために、当局が厳しい政治を行うようになってきたのですが、これは、民主主義とは対立の状況です。

そのような国々が権力的支配を強め、自由主義に対する対外的な軍事力を高めていくという動きが非常に目立ってきています。これに対し、自由主義陣営は連携し、そのような国々に対する防衛の仕組みを作っていかなくてはなりません。終戦直後のような、理想主義的な平和はもはや通用しないと考え、今の国際情勢に応じた対策を展開する必要があると思います。

小　最後に、今の中学、高校の保護者に対して、何か希望されることはありますか？

柴　お子様の健やかな成長こそ、保護者の方々が何より望まれることだと思います。子どもの可能性を磨くため、長所を伸ばすため、良いところを褒めることはとても大切です。しかし、時には、人格の未完成な子どもをきちんと叱り、指導することも必要になります。そして、「可愛い子には旅をさせよ」「若い時の苦労は買ってでもせよ」と言うように、学生時代に苦労や困難に直面しながら、それを乗り越えようと努力した経験が、その子の将来を支える力になるものです。このように、教育というものは、大変奥深いものです。昔は、そのような重要かつ困難な教育の担い手である先生に対して尊敬の念がありましたが、残念なことに、今はそのような気風が薄らいできていると感じます。これは、良いこととは思いません。

子ども達が通う学校の考え方に耳を傾けるとともに、教育というものが、子どもと先生だけの問題ではなく、家庭教育、社会教育と密に連携しながら目指さなくてはならない「偉大な取り組み」であるということを皆で再認識し、これからも、狭山ヶ丘高校という伝統ある学校で学ぶお子様を応援してほしいと思います。

小　有難うございました。2月の講演会も、教職員、保護者一同、楽しみにしております。何卒、よろしくお願い申し上げます。お忙しい中、お時間を頂戴いたしまして誠に有難うございました。

柴　こちらこそ、ありがとうございました。

令和5年2月25日（土）に、本校講堂にて行われるＰＴＡ父母教室では、さらに充実したお話が聞けるものと思います。なお、昨今の社会情勢（コロナ禍）に鑑みて、講演への参加は［本校在校生徒・保護者のみ］と致しますことをご了承ください。

【特別対談】
衆議院議員 柴山昌彦 先生 × 狭山ヶ丘学園校長 小川義男

PTA父母教室の開催を前に、令和4年12月、講師である衆議院議員柴山昌彦先生と、本学園校長の小川義男が特別対談を行いました。学生時代のご様子から、現代の日本が抱える諸問題まで、見識を備えられた柴山先生ならではのお話を拝聴することができ、大変意義深い時間となりました。

柴 柴山昌彦先生　小 小川義男

柴 私の生まれは昭和40年（1965年）です。いわゆる高度経済成長期の真っただ中であり、戦後、先進国に追いつけ追い越せという気風のもと、多くの方が頑張っている時代でした。生まれる前年には東京オリンピックがありましたので、産業も好調で、とても活気のある時代だったと思います。また、団塊の世代よりは少し後になりますが、子どもの数も多い時代でしたので、同級生も多く、小学生の頃は、友人たちと遅くまで公園や原っぱで、全力で遊んだという記憶があります。

小 柴山先生のお生まれになった時代というのは、どんな時代でしたか？

小 日本が最も良かった時代と言えるかもしれないですね。

柴 そうですね。

小 小学校時代に、もし悩みなどがあったとすれば、どのようなことが悩みでしたか？

柴 少なくとも小学校低学年、中学年の頃はほとんど悩みはなかったです。強いて言えば、習い事の教室に通うときに、結構遅くまで遊んでいるものですから、親に早く帰ってくるように怒られたくらいのものです。ですが、小学校高学年になると「受験」の二文字がちらついてくるようになりました。最終学年からは渋々、塾に通い始めたのですが、友人たちと遊んだり学校で楽しく過ごしていたところから、受験に対してかなりのエネルギーを割かなくてはならない状況になってしまったということで、当時の私にとっては非常に苦労したなと思います。

小 柴山先生ご自身は、勉強一筋の学生生活だったのですか？

柴 いえ、実はそうでもなくて、例えば高校時代は、E.S.S.と呼ばれる学校のサークルに所属して、熱心に活動していました。私は英語が得意であったということもあり、英語でディベートを共に英語劇をしたり、英語科の先生が顧問を務めしたりしました。英語科の先生は、他の学校の生徒ており、更にネイティブスピーカーの講師の方もいらっしゃったので、その方々との対話の中で、生きた英語に触れることができたことも大きかったです。そのような環境で学んだ経験が、後の自分に影響を与えてくれたと感じています。また、大学に入ってからは、それまで経験したことのなかった体育会系運動部である空手道部に入部しました。全くの初心者でしたが、大学3年時にはチーム対抗戦のレギュラーになり、勝利をあげることもできました。充実した学生生活であったと思います。

小 それは、すごいですね！

小 私の学校では「人間に生まれついての能力差はない」というスローガンを掲げ、様々な活動に取り組んでいるのですが、これは少し無理があるでしょうか？

柴 私は、文部科学大臣として教育に携わった経験を通じて、子どもには本当に色々な個性や特性があるということを実感しています。その点において、校長先生が仰る通り、皆それぞれが輝ける原石であり、そこに大差はないと思います。そして、それぞれの特徴や個性を、いかにして磨いていくかが教育の役割だと思っています。昔は、どちらかと言えば伝統的な「大人数学級」が主流でした。私が小学生の頃は、一クラス40人から50人という人数で授業を受けている時代でしたので、一人ひとりが、それぞれ輝ける原石だとするならば、一人の先生がたくさんの生徒に対して画一的な授業を行うというのは、今思えば、少し無理がある状態だったのではないかと感じます。

小 これについては、私も思うところがあります。それは「いじめ問題」です。やや、時代と逆行するかもしれませんが、「いじめ問題」は、学級の少人数制とともに顕著になってきたように感じるのです。一学級に50人以上在籍していたあの時代、少し風変わりな生徒がいても、「人には色々な奴がいるものだ」という認識が当たり前であったように感じます。むしろ、30人～35人といった少人数制になったことで、変わり者をいじめるというような問題が増えてきたように感じるのです。このあたりについて、文部科学大臣も歴任された先生にお尋ねするのは大変恐縮ですが、ご意見をお聞かせください。

柴 恐らく、「個別最適化された学び」とともに、「協働的学び」というものも、重要なキーワードになると思います。一人ひとりの個性や特性に応じたかたちで力を伸ばすということが大事ですが、こちらだけを強調してしまうと、いわゆる団体、コミュニティーといった側面が見落とされてしまう可能性があります。現代社会において、全く一人で何かをするということは有り得ないですから、協働的に、チームで何かをしていく力というものが大切になります。私の子ども時代は、みんなで野原に出て遊んだり、時には喧嘩をしたりする中で、子ども達の間で「チームの暗黙のルール」のようなものが作られたものでした。毎日のように顔を合わせるわけですから、いじめっ子・いじめられっ子がいたとしても、それが、コミュニティーの破壊につながる決定的な問題になることは少なかったように思います。しかし、今は核家族化が進み、良きにつけ悪しきにつけ個人主義が行き届き、場合によっては匿名で、インターネットなどを用いて陰湿な人格攻撃をするようなことが起こってしまっています。また、昔と比べると、地域の繋がりが希薄になったり、コロナ禍においては学校行事ですら思うようにならない状況が続く中で、子ども達は精神的なストレスを抱え、かえっていじめが起こるというような状況も懸念されます。そのようなことを解決していくためにも、一人ひとりの個性や特性を尊重するとともに、チームで何かをするという経験や、団体生活に必要な規律や道徳といったことも、みんながしっかりと体得することが大切だと思います。

小 今の日本の深刻な問題は「人口問題」であると思います。少子化の中に日本が追い込まれた国家的な原因について、先生のご意見をお聞かせください。

柴 仰る通り、これから大きなエネルギーを割いて取り組んでいかなくてはならない政策として「人口（少子化）問題」は大変に重要なテーマです。実は、少子化に関しては日本だけでなく、文明化が進んだ先進国共通の悩みであるとも言えます。逆に、発展途上国では、人口が増え、衛生面や貧困、飢餓の問題で苦しんでいるという状況があります。しかし、文明が発展し、価値観が多様化した日本において、これからの社会や経済を持続可能なものとするには、やはり出生率が「2」を大きく割り込んだ現在の状況を改善していかないと、生産力ひいては国力自体が衰退してしまう可能性があります。

少子化の原因としては、晩婚化が進み、一人の女性が出産をできる時期や人数に限りがあることや、女性の教育や地位向上、キャリアという点において「男女共同参画」がテーマとなる中、結婚や出産に対する価値観が多様化していることが考えられます。また、核家族化が進み、昔のように大家族で、多くの目で子どもの面倒を見るということが少なくなっているという点も、この問題に拍車をかけていると思います。もしかしたら、出会いの場が少ないというのも影響しているかもしれません。

子どもの数を増やすためには、子育て支援に対して、もっと予算を確保していかなくてはなりません。例えば、保育園の数を増やすことや、出産一時金を増やすといったこともちろん対策にはなりますが、やはり一番は、教育にかかる家計への負担が大きいと言えますので、その点に対してしっかりとした支援ができるかということも大変重要だと思います。

小 最近は深刻な円安の影響で、本校の修学旅行も、海外に赴くことが困難になってきています。この物価問題に関しては、今後、どのようになっていくのでしょうか？

柴 円安になると、輸出で国を発展させることができるというメリットがあると言われますが、それも程度の問題です。日本のように資源の乏しい国では、原材料を輸入に頼っている側面がありますから、たとえ輸出が増えたとしても、原材料の高騰によって必ずしも貿易収支